2 古文書

一 森野家文書

（森野藤助氏蔵）

一 和薬改帳

享保七年

（表紙）

和薬御改扣

一威霊仙　是迄通用の向き根の威霊仙ハ他草の根に
唐威霊仙ハ真ノ上品也　て威霊仙ニあらす、向後通用致間敷候、
又一種薩摩威霊仙と云者是も真物にてハ無之候得共、先通用可致候、和名クワイ草の根是真ノ威霊仙也、向後専通用可致候

一茵蔯　和茵蔯ハ真にてハ無之候得共先通用可致候

一猪油　是迄猪ノ油と申通用致来候、向後ハ野猪油と名を改通用可致候

一郁李仁　和名庭梅の実是真ノ郁李仁也、可致通用候
唐上品也

一淫羊藿　和イカリ草ノ葉又テントリハナトモ云、是真ノ淫羊藿也、向後通用可致候

一萎蕤　是迄ハ生□手ノ黄精ト云物を萎蕤と名付通用致候、向後ハ地黄手ノ黄精を萎蕤と

申通用可致候

一莨菪子　是迄の和ノ莨菪子ハ多者こノ実にて莨菪子ニあらす、向後通用致間敷候

一緑　青　是まて緑青と申通用致来候、向後和銅緑と名を改通用可致候、但シ是まて奈良緑青と申来候也

一緑　礬　是まてロウハヲ緑礬と名付通用候由、緑礬ハ各別ノ物にてロウハにてハ無之候、ロウハヲ緑礬と申通用致間敷候

一白頭翁　和名カハラチコノ根又セカイ草トモ云、是真ノ白頭翁也、向後通用可致候

一麦門冬　大葉ノセウカヒケノ根也　是真ノ麦門冬也、撰通用可致候

一白鮮皮　是まて通用ノ和白鮮皮ハムクケノ木ノ根にて白鮮皮ニあらす、向後通用致間敷候

一浜防風　是防葵の類にて真ノ防風にて無之候得共先通用可致候

一防　風　是まて削防風と申通用致候、是も防葵根にて真ノ防風にてハ無之候得共先通用可致候

一薄　荷　是まて薄荷を龍脳薄荷龍薄荷なとと申通用致候、向後ハ薄荷とはかり申通用可致候

一鱉　甲　是まて海亀川亀の甲なと鱉甲と心得通用致候由、海亀川亀ハ亀甲にて鱉甲にあらす、スッポンノ甲是真鱉甲也、向後是を通用可致候

一片　脳　片脳ハ龍脳ノ代名にて候処心得違樟脳ノ焼返シヲ片脳と名付通用致来候、是まての片脳ハ向後香具片脳と名付通用可致候

一独　活　和独活ウトノ根にて独活にて無之候得共ウト独活と名付通用可致候　唐上品也

一土　龍　是迄ウコロモチヲ土龍と申通用致来候、ウコロモチハ土龍にてハ無之候、向後ウコロモチト申通用可致候　唐上品也

一杜　仲　和名小葉ワルマサキノ皮白キ糸の多出ル

唐上品也

一楮実子　和名カウソノ実真ノ楮実子也、通用可致候

一乾不分葛　和ノ乾葛ハクツフシノツルニテ真ノ乾葛ニテ有之、向後通用致間敷候

一何首烏　唐上品也　和何首烏ハ和名毛イモト云物ニテ真ノ何首烏にあらす、毛イモノ何首烏ト名付通用可致候

一乾漆海　乾漆ハウルシノカハキタルヲ云ナリ、カラス石ト云物乾漆としてまゝ通用致候由、カラス石ハ北国ノ山ヨリ出ル物にて大毒也、向後通用致間舗候

一海桐皮　和名大タフノ木皮真ノ海桐皮也、通用可致候

一蝦蟆　蝦蟆カヘル也、蟾蜍(センジョ)也

一寒水石　是迄通用の寒水石ハ方斛石ナリ、真ノ寒水石ハ塩浜又ハ塩ヲ久ク積たる地ニ間々有之物也

一大戟　是迄通用和ノ大戟ハ苧麻根にて大戟にあらす、和名ハマヒト草ノ根真ノ大戟也、諸山ニ間々有之苧麻根の大戟ハ向後通用致間敷候

一大薊(ケイ)　和名山アサミノ根

一小薊(ケイ)　和名沢アサミノ根真物也、可通用

一連翹　唐上品也　和大レンケウノ実小レンケウノ実真連翹也、通用可致候

一続断　唐上品也　和続断和名アサミノ根是迄通用致来候、アサミノ根ハ真続断にてハ無之候得共先通用可致候

一鼠尾草　和鼠尾草ハミツハキヲ鼠尾艸と申通用致来、ミソハキハ鼠草にてハ無之候得共先通用可致候

一南木香　和南木香ハ他艸ノ根にて南木香にあらす、向後通用致間敷候

一雪丸油　和雪丸油ハタマキリノ実ノ油ニテ雪丸油

唐二種有紫大戟(虫損)□大戟也紫大戟上品也

唐一組本雪丸又ハ今大風子ヲ雪丸ト云薬用ニ可奇大風子ノ油ヲ雪丸油ト申来ル

一大茴香　和角茴香ハシキミノ実にて茴香ニあらす、毒有り、唐角茴香に能紛ル、物也、撰通用可致候

一瓜蔞仁　平瓜楼仁（マヽ）

タマツ□（虫損）瓜蔞仁ハ王瓜也

一貫衆　和貫衆ハシダノ根にて真物ニ無之候得共先通用可致候

一苦楝子　是迄通用ノ和苦楝子ハセンタンノ実にて真苦楝子にあらす、大和種ノ苦楝子是真苦楝子也、大和国に間々有り、常ノセタ（ン）タントハ異リ撰通用可致候

一苦楝根皮　右同断

一苦楝皮　右同断

一薫陸　是和琥珀也

和琥珀ト名ヲ改通用可致候

一芫花　是迄和芫花と申通用致来候ハ　ハ、コクニあらす、心得通用可致候

一桂心　和桂心ハ和肉桂也、多ク松浦ゟ出ル、向後和肉桂ト名ヲ改通用可致候、桂心とハ肉桂ノ代名なり

一牛膝　唐上品也　真牛膝是続

是まて通用の牛膝ハ土牛膝ト云物也、和名イノコツチ類少相違有リ、真牛膝撰通用可致候

一五味子　朝鮮有唐有和真五味子ミナ上品也

和五味子ハ土五味子ト云物にて真ノ五味子にあらす、北国諸山に真五味子有り、向後撰通用可致候

一紅花　是迄薬用古キヲ通用致来候由、新ヲ薬用に通用可致候

一巨勝子　和黒胡麻真巨勝子也、通用可致候

一穀精草　和名ホレクサ是真穀（殼）精草也、向後通用可致候

一天竺黄　是まて通用の和天竺黄ハ竹ノサヒ也、天竺黄にあらす、通用致間敷候

唐上品也

一蒼朮
和蒼朮ハ真蒼朮也、通用可致候、若根古根共ニ皆蒼朮也、若根蒼朮古根ト名付通用可致候

一桑寄生
和桑寄生真物間々有とも諸木ノヤとり通用致候由撰通用可致候

一柴胡
和鎌倉柴胡川原柴胡二種通用致来候、鎌倉柴胡ハ真ノ柴胡也、専通用可致候、川原柴胡ハ雛腿児と云物ニテ真ノ紫胡にあらす、尤熱ヲ解する能有、先通用可致候

一山梔子
是まて薬用に古ヲ用来る由、新ヲ薬用ニ通用可致候

一草鳥頭
和名トリカブト、云物ノ根是真草鳥頭也通用可致候

一細辛
唐細辛和真細辛上品也
是迄の和細辛ハ杜衡(トカウ)ト云物ニテ真ノ細辛ニあらす、一種佐渡細辛日光山にてサンシケト云草ノ根是是(マヽ)真ノ細辛也、専通用可致候、是までの和細辛ハ土細辛ト申通用可致候

一鬼臼
和名ヤクルマノ根又トチバ花云是真鬼臼也、通用可致候
是まて通用の和菊花野菊の花にてクヨクト云物也、真菊花にあらす、人家の園に植る所の菊の花白ト黄なるを取て通用可致候

一菊花

一羌活
唐二種有本手節手ト云
是まて通用の和羌活ハウトノ根ニテ真ノ羌活にあらす、ウト羌活ト名ヲ改先通用可致候、和名シシウトノ根又サイキ花云是真羌活也、通用可致候

一枳実
唐上品也
和名カラタチ和真物にて無之候得共先通用可致候

一枳殼(殼)
和枳殼(殼)同断
唐上品也

一紫草茸
是まて通用の紫草ハ長ク立ノヒタルヲ通用致来候、向後紫艸ノワカバヘ短キ内ニ取て通用可致候

一鐘乳石
和鐘乳石諸国深山ノ洞ニ有

一辰砂
和無之物也、近年唐より渡リ無数水干辰

砂トシテ朱砂ヲ交通用致由、朱砂ハ水銀にて拵たるものなれハ大毒有り、撰通用可致候

一沙苑蒺藜　和沙苑蒺藜和名タネフノ実是真物也、通用可致候

一燕脂　和燕脂ハ胡粉を紫の染汁にて染たるもの也、向後絵ノ具燕脂と名を改通用可致候

一白芷　和白芷ハ近年所々より作出ス、山城国ゟ多ク作出ス、是真白芷也、向後愈用可致候

一白斂　和白斂ハ琉球イモ又赤イモト云物ニテ真白斂にあらす、通用致間舗候

一白芨（ヤウ）　唐上品也　和名シラン又ケイラントモ云、真白芨也向後通用可致候

一木瓜　唐本手木瓜ト云ハ上品也　是迄通用の和木瓜ハ和名小サキク（ハリン）にて真木瓜にあらす、向後通用致間敷候、和名カラホケノ実是真木瓜也、向後通用可致候

一萆薢　和名ヲニトコロ真萆薢也、向後通用可致候

一白薇　和名丸葉フナハラノ根真白薇なり、向後愈通用可致候

一白檀　和白檀ハ真白檀にあらす、向後通用致間敷候

一木香　和木香ハ近年所々より出ル　和名ワレモカウ真木香也、向後可通用候

一三七根　和三七ノ根是真物也、向後通用可致候

一菖蒲根　石菖根之事也　石菖根之事也、是迄菖蒲の根ヲ通用致候由、向後石菖根ヲ通用可致候、菖蒲之根ハ通用致間敷候

一栢子仁　唐上品也　和名ソクハクノ実（コノテカシハ）ニ云、真栢子仁也、向後通用可致候

一飛廉　和名ヲニノマユハキノ根是真飛廉也、向後通用可致候

一黄精　是迄地黄牛黄精ト云物通用致来候由生姜牛黄精ト云物是真黄精也、向後改通可致（用欠）候

一縮砂（不用）　和伊豆縮砂ト云ハ是カウツクト云物也、

縮砂ニあらす、縮砂和無之物也

一白朮　和白朮ハ蒼朮也、古根蒼朮若根蒼朮ト名ヲ改通用可致候、白朮蒼朮元別物也
唐上品也

一葶藶子　和葶藶子ハナヅナノ実ニテ真ノ葶藶子ニ無之候へ共先通用可致候

一胡黄連　和胡黄連ハ是迄当薬ヲ胡黄連ト通用致来候、当薬ハ胡黄連にてハ無之候、向後当薬ト名ヲ云テ通用可致候
和方ニ当薬ヲ用唐ノ方ニハ胡黄連ヲ可用歟

一仙人草　和仙人草ハ和名ツルクサト云物ニテ仙人艸ニあらす、向後ツルクサト名付通用可致候

土茯苓　和山帰来ハ菝葜ト云物ニテ山帰来ニあらす、山帰来ト申向後通用致間敷候
山帰来也

右之外名誤来或ハ猥ニ名ヲ付致商売来物多ク有之候、向後和名ニテ致假名書売買可致候、国々所々ニテ和名替り候物之類有之例ヲ以和名假書ニテ可致通用候、右之書付ニ無之和薬ハ是迄之通可致売買候、何茂和薬計之事ニテ唐薬種之改ニテ無之候、和薬改之通可相守者也

享保七壬寅年改ル

二　薬草触書写

享保二十年

（表紙）

享保廿年
薬草御触書写

植村左平治薬草御用ニ付、江戸より東海道通三河国江罷越夫ゟ又海道江出勢刕四日市松坂辺志摩国伊勢国境夫ゟ川俣筋伊賀国大和国吉野郡山中下市迄相廻り伊賀越関江出東海道通江戸江罷帰候、当月中旬発足候間道中人馬之儀往来共ニ佐平治断次第無滞可差出候、其外薬草并御用物持送候人馬等入候時者、是又断次第無手支可差出候、若通り道筋ゟ近辺へ入込候御用有之節者案内之者其宿ゟ差出、勿論立寄候村方へ相通シ御用滞無之様ニ可致候、

佐平治自分入用之人馬賃銭并木賃等御定之通差出し罷通候、尤宿々にて馳走かましき儀一切致間敷候、右之通手支無之様ニ可致者也

卯閏三月

無出座 弥惣吉

筑前

志摩

無出座 丹波

佐渡

御使御用ニ付無印形 筑後

東海道

品川宿ゟ

右宿々

問屋

年寄

三　大和国産薬種書上帳

（表紙）

大和国出産之薬種御尋ニ付奉申上候書付

諸国出産之薬種凡別紙書付之通相聞候ニ付、弥其国々ゟ出候ハハ此度御用ニ候間、先其品少々宛当地へ可被差出候、右薬種出方出産之地名等委相糺別紙書付之外ニ茂薬種等在之候ハヽ、是又右同様ニ取計、尤書面之内之品ニ而茂若其所ニ者無之候とも出産之地名等相分候ハヽ、其訳并薬種之価等も可被書出候

右之趣御尋ニ付左ニ奉申上候

大和国

一地黄　地黄村 宇陀辺

地黄村之儀者十市郡ニ在之候得共地黄作り候義是迄

承不申候、当国所々ニ而作り申候、当御支配所村々ニ而も作りニ而取扱罷在候

一川芎
当所御支配所村々ニ而作り申候、其外当国所々ニ而少々宛作り申候、猶又伊勢川俣谷（カハタ） 伊賀ニ而も作り候

一当帰
当御支配所并当国所々ニ而専ら作り申候、猶又近来紀州山城ニ而茂作候得共下品ニ御座候

一芍薬
此品 三品有之候

一白芍薬 花根とも白く粗皮をこそげ去り干候を白芍薬と申候、則宇田芍薬と唱へ申候、皮付ニ而候を生干白芍薬と申候て取扱罷出候、尤当御支配所ニ而作り申候、其外当国所々ニて少々宛作り申候、猶又勢州川俣谷専ラ作り候を取扱罷在候

一赤芍薬 花根とも赤く粗皮をこそげ去り干候を赤芍薬（赤芍薬）と唱へ申候、当御支配所其外所々ニ而も少々宛作り申候、当国吉野郡下市奥ゟ専ラ作り出申候を取扱罷在候、猶又山城クセ郡ニ而専ラ作り候者右粗皮を去り候て蒸して干申候

一山芍薬 花房赤ニ而 根も赤ニ而 細く深山自然生を生干ニ致候、当御支配所并吉野郡山中勢州川俣谷山中ゟ掘出を取扱罷在候

一白芷

一黄芩
当御支配所并当郡村々専ラ作申候、其外当郡近辺ニ而作候得共□儀ニ御座候

一牛膝
当御支配所并当郡村々少々宛作申候、其外当郡近辺ニ而も作り申候

一羌活

一独活

一前胡
当御支配所并当郡村々山野自然生を専ラ掘出し申候、猶又勢州よりも出候を取扱罷在候

一葛根
当御支配所并当郡村々山野自然生を専ラ掘出候得共、葛粉ニ仕候、葛根ニて直段高直之節者葛根ニも仕候、大かたハ葛粉ニ仕候を私共買取候而晒し申候、葛根ハ金剛山麓ゟ掘出し製法仕候を取扱罷在候

一龍胆
一吉梗
当御支配所并当郡村々山野自然生掘出し候、其外当国外方ゟ出候義承り不申候

一天花粉
当御支配所并当郡村々其外勢州川俣谷ゟ山野自然生掘出候を買取私共製法仕り罷在候、尤外国ゟ出候並天花粉杯と申候様之紛敷品ニ而者無御座真物斗り取扱罷在候

一紅花
当御支配所并其外所々ニ而作り候へとも少々之儀ニ御座候、勢州谷ゟ多く作出候を取扱罷在候

一直根人参　吉野人参与唱へ候品
当御支配所之深山ニも少々宛者自然生出し候得共吉野郡山中自然生多く掘出し候、尤吉野郡ニ而作り出し申候をも取扱罷在候

一牡丹皮
当郡ニ而者作り不申候、吉野郡下市奥ゟ多く作り出候を取扱罷在候

一草鳥頭　金剛山
当郡よりハ出不申候、金剛山麓ゟ出申候

一細辛　大峯ニ在之
大峯山中ニ真物在之候義承及罷在候へとも取扱之義者無御座候、当郡ニ者真物無御座候

一沙参
蔓沙参羊乳根和沙参ッリガ子草当郡山野自然生掘出取扱罷候、当郡之外ニ而出候義不承候

一天麻
当御支配所其外当郡村々ゟ掘出し申候

一桑白皮
当御支配所山中ニも少々在之、勢州川俣谷ゟ多く出

候を取扱罷在候

一延胡索

享保年中　私祖父藤介唐種延胡索　拝領仕作殖シ売弘候様との蒙仰植付候て今以作り売弘罷在候、当国外方ニ出し候義不承候

一貝母

右同断唐種ニ而御座候

一烏薬　台州

右同断台州種ニ而御座候

一玄参

右同断唐種ニ而御座候

一隠羊藿

唐種者　私植付御座候〇和隠羊藿イカリ草之儀当国何方ニ在之義未承候

一禹余鐘

一大乙余糧

当国生駒山中ニ在之候得共取扱之義無御座候

一遠志

当御支配所并当郡山野自然生在之候得共小草ニ而僅之儀故掘出し不申候

一雲母

当国ゟ近来出候義不承候

一蒼朮

当郡ゟ出不申候、尤吉野郡下市奥ニ而白朮を作り候を川白朮と唱へ候て取扱罷在候

一石南葉　大峯并吉野山ニ在之、大峯并吉野山ニ在之候得共取扱候義無御座候

都合三十四口候

右御尋之薬種之訳書面之通奉申上候

四　回状

（表紙）

下多古村ゟ幸田善太夫手代

宇陀町迄

右村々庄屋中

藤井勝右衛門

覚

森野藤助儀御薬草御用相勤候、就夫用事有之宇陀町江急ニ罷越候間、右道筋村々にて籠駕(駕籠)壱挺藤助断次第差出頼入候、尤用事仕廻罷帰候節共断次第御申付頼入候、以上

酉四月十九日　幸田善太夫手代　藤井勝右衛門

下多古村ゟ
宇陀町迄
右村々
庄屋中

五　回状

廻状　板垣用右衛門　小村初

覚

一御薬草駕籠壱荷
人足弐人

右者森野藤助明十六日薬草御用ニ付、宇多郡松山町江罷通候ニ付、書面之人足差図次第無滞可差出候、尤右薬草かこ追而宇多町ゟ上宮奥村江十七日ニ相通し候節、人足差可有之候間是又無手支様ニ可被差出候、此廻状留村ゟ藤助江相返し可申候、以上

五月十六日　原新六郎手代　板垣用右衛門㊞

小村㊞
わしか村㊞
大熊村㊞
守道村㊞
松山町迄㊞
関戸村㊞
上宮奥村㊞
右村庄屋中
年寄

六　薬草見分控

（表紙）

御薬草御見分所扣

享保十四年酉ノ四月　日

御用ノ始リ室生山三十二才年

（裏表紙）

享保十四年

山入初り

一酉四月四日　泊り

室生山　五日見分

御本陣

見習

一六日　泊り

伊嘉（賀）見村七日黒尊山

御本陣助左衛門方

見習

御献上弐釣

一八日九日十日　泊り

神末村　堅胡子出ル

御本陣彦惣方

見習伝四郎

此間土屋原見分仕候

一十一日十二日　泊り

桃又　徳間滝

セつ志やうか滝

小鳥か滝

御本陣

見習

此所ニ草志ゆやう出ル

一十三日

平野村（カウズマイ谷　シモスマイ谷）

一十四日十五日十六日

麦谷（口のたいこ　奥のたいこ　アサミカダケ）

御献上弐釣

一十七日十八日

碇村　在廻り斗見分

一十九日廿日廿一日　雨天泊り

下太古村　滝ノヌカ見分

御献上弐釣

一廿二日廿三日

瀬戸村（鍋ケ谷 芝尾）

中奥村

一廿四日休廿五日御献上一釣仕立

和田村夫ゟ岩家見分

志やうノいわや

菊ケいわや

志やうでんいわや

かしわき之内不動かいわや

志やう乳石出ル

一廿六日　泊り

一廿七日廿八日　廿八日菊ケ宿

右ハ野宿也

入流村（マヽ）　廿八日ゲシカ滝　廿九日御献上二釣

一晦日　雨天

伯母谷　五月朔日（阿し谷 竹ノ羽）

此間ニ深羊蘿有

一二日御献上弐釣

和田村

一三日

白矢村　白矢かたけ見分

一四日

よしの奥院　寺廻り見分

安禅寺

一五日　牧尾

吉野山泊り（森野か嶽 アサミカ嶽）

此所御薬園初り

一六日七日八日九日

下市江出ル

一十日十一日ニ大井上

赤滝村（高原仁蔵か茶屋）

一十二日
山上竹林寺泊り
一十三日
北山天瀬村
一十四日同村（水フト 中ノまた）
十五日同所　奥玉谷
一十六日此所御献上三釣
西ノ村泊り
一十七日　風お連
古瀬村（狐谷 大又）
一十八日同泊り
一十九日
川合村（上ハゼ 広ノ屋敷）
一廿日同村（奥西山泊リ 白木谷 手水谷 舟ノ谷）
一廿一日同村泊り
一廿二日
白川村（白川又 宮ノ谷 内ケ谷）
一廿三日　前鬼山

釈迦（廿四日 同所 廿五日 釈迦嶽并ニ神前 大日カ嶽）
一廿六日
上池原（大又谷 古家谷 シタイ谷）
廿七日同村池尻ヲイワタリ
一廿八日大瀬村見分夫ゟ
上池原江帰ル
御献上三釣出ス
一廿九日
寺垣内村泊り
一六月朔日　同所泊り
一二日　紀州之内大沼村
一三日　十津川竹筒泊り
一四日　玉置山寺泊り
一五日　手分　王らひ尾泊り
一六日　出谷泊り
見分所殿居谷上路谷
大かけ谷
一七日　上湯之川泊

見分所□(虫損)谷楽大谷
一八日　同泊り
右山見分
一九日　迫西川泊り
見分所字志やれかわ
雨ふり難義
一十日　三浦泊り
道筋見分
一十一日　五百瀬芋瀬
見分所小屋谷大黒谷
五百瀬庄司満所左京
三位中将これ盛具そく
大刀有
一十二日　野の原泊り
見分滝ノ岡小井横垣
一十三日　杉瀬泊り
見分奥千丈西の谷
風谷(おろし)
一十四日　河渡泊り
見分榎木谷あし谷
うちの領山手領
一十五日　同泊り
見分大黒谷小黒谷
一十六日　上野路泊り
見分字黒谷高津之内
高津谷
一十七日　中之村ノ内　小川迫村泊り
見分布引滝
一十八日　同所泊り
一十九日　辻堂
此所ニ御薬草十六指預ケ
一廿日　中津川泊り
一廿一日　赤谷山小屋泊り
谷々見分
一廿二日　同所
一廿三日　今西村之内大股泊

一廿四日　同所泊り
見分字高添星輪峯
星輪谷
一廿五日　高野山
西院谷聖無動院泊
奥院山見分此所鏡石
三丁下ニ巴戟天有
一廿六日　坂本泊
一廿七日　山西泊
塩野塩谷見分
一廿八日　同所泊
山西宮山庵住村見分
一廿九日　坪之内泊
和田大クヘ見分九尾谷
日裏山見分
一晦日　中谷泊
坪之内大谷見分
一朔日　同所泊
左平次様御休見習衆共
手分見分
峯川郷
一二日　日裏村泊
迫村池谷川股見分
一三日　鹿場泊
是日辻堂ヘ薬草受取ニ
藤左エ門藤助遣ス
一四日　辻堂泊
一五日　丈戸
一六日　下市帰宿
下市村十九日迄留り
御薬菌出来
一廿日　石見川泊り
小深動遠寺松本院庭ニ肉桂有
一廿一日　東坂泊
此所ニ而藤助藤左衛門孫左衛門
五六人食傷ニ而難義(儀)

金剛山見分
一廿二日　楢柄(名)泊
一廿三日　達摩(磨)寺泊り
一廿四日　下長井泊
一廿五日　長谷泊
一廿六日　長瀬泊
是日名張村ニ而御暇乞

七　物産宝山記　　享保十四年

(表紙)
漢名并ニ和名付
物産宝山記
全
和州見分

(表紙裏書)
享保十四(己酉)歟　戊酉四月三日

甘草拝領日於下市　御下来　上保政右衛門殿
享保十四　磯田半兵衛殿
酉ノ十二月九日七根　井上孫左衛門殿
御公儀様ゟ奉拝領候　畠山栄長さま
中谷　畠中藤左衛門殿
紀州二江　長村貞雄さま

八　カタクリ粉につき口上書

口上覚

一御用ニ付、カタクリ粉二三百目宛来辰ノ年ゟ差上候様ニ被仰付候、勿論親根不足ニ而植付本根(土カ)沢山ニ無之候ハヽ、親根取集随分作ふ屋し其上巳ノ年ゟ成共、又ハ午年ゟ成共、可差上旨ニ被仰渡候、御直段之儀者粉百目ニ付、代銀拾匁宛可被下筈ニ而も箱入ニ而、大津御役所江可被差出候、則其方封之儘江戸江大津御役所ゟ可参筈且又代銀請取書付もカタクリ之粉被差出候節相認持参候而其節直々御役所ニ而、可被下筈ニ候間、粉有

目次第ニ百目ニ付、代銀拾匁宛之以割合を請取可有之候

大津御支配

一御代官所へも右御断之御通シ参り可申筈ニ有之候、此趣茂申渡シ候様ニとの御事ニ候

一宇陀郡神末村近辺来辰ノ年ゟ毎年カタクリ御用ニ付、其方掘リ取ニ参可申由之御通シ神末村近辺之御支配御代官多羅尾治左衛門殿江も御断可参筈ニ有之候

右之通其方江申渡シ候様ニ被仰付候ニ付、如此ニ御座候、以上

卯十一月十二日　駒場御薬園預り　植村左平次

追□、大和之国宇陀郡松山町薬種屋森野藤助と御断ニ申被成候筈之□候

九　左平次から藤助宛書状

尚々御息災之御通申上候、以上

一頼遣し候書状無御迭(矢カ)念何レ茂御届ケ可被下候、い上被差上候葛壱箱被御遣請取申候近々為持可遣候

一御太切成ル物ニ候得共、枳殻壱本付子弐根遣シ申候間随分作り広メ可被申候

一昨日申渡シ候趣、口上ニ而ハ其元之御為ニも宜しかる満しく候哉と存候ニ付、書付ケニ而、進候間左様ニ相心得可被成候

一明日此方江御暇乞ニ御越候事ニハ及不申候、此方へ被思し候而ハ品川へ出テ候へ者道法四里余之御廻りニ御座候儘御越ニハ□及不申候

何分道中御無事ニ御急可成候、来春者相談致し呼ニ可遂候、此度被仰渡候御用之品并薬屋共江之申合セ間遅不申候様ニ可被致候

一カタクリ之義、随分精出し毎年被差上候様ニ心懸ケ可然存候折節取込早々如此申候、以上

十一月十三日　左平次

藤助様

一唐薬艸木拝領仕候品左ニ奉申上候

享保十四酉年ニ

甘艸　東京肉桂　天台烏薬

牡荊樹　山茱萸

享保二十卯年ニ

破胡紙　防風　貝母

知母　山帰来　延胡索

黄柏　使君子　呉茱萸

元文二巳年ニ

秦□(虫損)　砂(沙)参　百部根

白朮　倉朮　艸果

草豆蔻　黄芩　白芷

藁本　黄芪　王不留行

胡荽子　甘遂　河(何)首烏

附子　枳殻　酸棗仁

元文五申年ニ

朝鮮種人参種　百粒

右之通御座候、尤土地不相応ニ而生育致兼候品も御座

一〇　森野藤助書状

乍恐書付を以奉申上候

和州宇陀郡松山町

森野藤助

一享保年中上方筋諸山薬艸為御見分植村佐平治(次)様御廻村被成候節、私親藤助見習役ニ罷出度々御供仕、数日御用相勤申候、其後享保十四酉年右佐平治様御案内無滞相勤候ニ付、為御礼江戸表佐平治様迄参上仕候所、御案内相勤候段大儀ニ思召候旨ニ而唐薬艸木之種類等被下置難有頂戴仕植付罷在候

一植村佐平治様薬艸御見分之節、和州宇陀郡神末村近辺ニ在之かたくり御見留被成候所、其後享保二十卯年十一月親藤介(助)江戸表へ罷出候所、加納遠江守様小笠原石見守様植村佐平治様親藤介を御召連被遊右御両方様御目通被仰付、其上かたくり粉御用ニ付、製法被仰渡其節ゟ今以年々かたくり粉御用ニ相納罷在候

候

一明和七寅年私義江戸表へ罷出親藤介病死仕候趣、植村佐平治様御跡植村佐源治様(次)へ御届ヶ申上候節、佛法鳥と申高野山□(虫損)鳥を持出佐源治様へ掛御目ニ候所、珎敷鳥ニ而佐源治様□(より力)白須甲斐守様、松平隠岐守様へ被入御覧候、其節佐源治様ゟ□(虫損)被下候ニ茂親藤介儀佐平治様御門弟ニ被成上方筋諸山へ度々被召連薬艸為御見習被成下候所、出精仕候ニ付、唐薬艸木之類も被下置候ものニ御座候段御申上被下候由ニ御座候、尤佛法鳥者献上仕其後

白須甲斐守様へ御目通被仰付被下候

一御薬艸御見分之節其所々ニ而見習之もの御召連被遊見覚□(虫損)候而薬種掘取らせ世上へ弘メ申候様との思召ニ御座候由ニ付、私親藤介も其節罷出、御用相勤申候而見覚、其後者被仰渡候通りを相守り諸人へ教へ百姓作間ニ和薬□(虫損)為掘買取候而製法仕諸方へ売弘申候儀、家業□(虫損)所百姓ニ者作間ニ拵助成ニ仕候義難有奉存候御儀ニ□(虫損)私義者唯今ニ至り不相変和薬種取扱大切ニ渡世仕罷在候□右拝領仕候唐薬艸木も土地相応仕候品者、年々作増候而右和薬種同様ニ売弘罷在候、尤右唐薬艸木之儀親藤介申居候ニ者、作増候ハ、御上様へ奉入御高覧ニ其上御用ニ茂達候やうニ相成候へ者、本懐之旨兼而申聞置候、然ル処近来作増候品茂御座候ニ付、何卒親藤介申置候通り私持参仕度、近頃存罷在候之所段々老年ニおよひ遠路往来も難成候へ者、無是悲(非)悴へ申付持参為致度候

唐種薬艸木

東京肉桂　天台烏薬　山茱萸
防風　見母　知母
延胡索　百部根　何首烏
山査子　砂参

右之十一種製法仕候ニ付、恐多義ニ御座候得共、御上様へ奉入御高覧度奉差上候、猶以前段申上候通り和薬種唐種とも売弘来申候所、世上ニ功能用ひ覚候而、年増ニ能弘り万民奉請御高恩候之段難尽筆紙ニ、乍恐広大普救之御慈悲と奉仰候御儀ニ御座候、右奉差上候十

一種之薬種、何卒御高覧成下候ハ、生世々難有御儀ニ
奉存候、以上

二　薬種代銀覚　　宝暦十三年

覚

和州宇陀郡松山町
薬種屋
森野藤助納

一　金三歩(マヽ)四匁三分　人参根三拾の根代
此限四拾九匁三分
内
三拾弐匁　上拾六根　壱根ニ付弐匁
拾弐匁　中八根　同断
弐匁　錆四根　同断五分
三匁三分　小拾壱根　同断三分
外
銀百弐匁三分　運賃并諸入用
同壱匁弐分　箱代
合銀百五拾弐匁六分
此金弐両弐分ト弐匁六分
右之通相渡候間藤助江可被相渡候
未十月
御勘定所ゟ
宝暦十三年未十月ニ古市へ参ル

三　カタクリ根相増につき申上書

乍恐書付以御願奉申上候
一去ル安永五年申ノ八月ニかたくり根作ふやし候様ニ被仰付、尚又御林之内字付山と申所へ植付候而ハ、生立如何哉と御尋ニ付其砌植付置候処、随分生立宜敷御座候、其後潰地願様被遊御替り万年七郎右衛門様ゟ被仰付候、年々かたくり粉三〆匁宛上納仕候処ニ御座候、乍併同郡神末村并私薬計斗ニ而ハ末々難相調被存候、元来小草ニ而五六年年重不申候而ハ判被清成不申無数之物多ク掘取候ハ、絶可申様ニ奉存候、加様ニ成取候而ハ甚ク気毒ニ奉存候、右御用親代ゟ四十八ヶ年之間

無滞相勤来候、其年之随□気□□多少ニ□相調之□事と奉存候、年々貫目相定多ク差上候事無心元奉存候、何卒右御願□ □御林之内付山壱ヶ所かたくり植場所ニ為仰付被下候ハヽ、千万難有被存子々孫々至迄御用永久相勤可申候御冥加至極難有奉存候、以上

三 朝鮮人参につき書上写

天明二年

（安紙）

当寅年芳出書上写

但当春芳出員数高弐千六百拾四根

此根数ハ御買上残ニ相成全御所持高ニ相成候間左様御心得可被成候

朝鮮種人参芳出奉書上候

一 弐拾壱ヶ年物　三本芳出

一 弐拾ヶ年物　弐本芳出

一 拾九ヶ年物　弐本芳出

一 午年分　百二拾三本

外ニ弐拾本朽腐申候

一 未年分　一向芳出不仕候故

掘返見候処、何も無御座候

一 申年分　五百五拾七本

外ニ百三拾五本朽腐申候

一 酉年分　百三拾八本

外ニ拾三本去御改とハ相増候

一 戌年分　三百九拾弐本

外ニ拾五本朽腐申候

一 亥年分　六百三拾本

外ニ弐拾三本去御改とは相増申候

一 子年　七百五拾七本

一 丑年　未芳出不仕候

合弐千六百拾四本　当寅年芳出全有高

此高江六百九拾根相増置

合三千三百四根　此員数当丑年芳出根数有高トし

て

内六百九拾根　此分当秋御買上積りニいたし候

残テ弐千六百拾四本　当寅年有高

右芳出相改書上候通少茂相違無御座候、御用之節ハ何時ニ而も差上可申候、以上

天明二年
寅五月朔日　和州宇陀松山町　森野藤助

人参御掛り
御役人中様

右之通御座候間、当寅年芽出御書上員数ハ相障り不申候而御買上ニ相成申候残

弐千六百拾四本ニ相成申し候、左様御心得可被成候

一四　人参代銀覚　天明二年

覚

一朝鮮種人参弐百根　疵根腐弐貫四百目

此代銀弐百七匁

此金三両壱分銀拾弐匁

此訳

中劣不形百　根　但宅根ニ付宅匁三分

代銀　百三拾匁

小　百　根　但宅根ニ付宅分宅匁

代銀　拾壱匁

疵根腐弐貫四百目　但掛目四匁ニ付宅分宅匁

代銀　六拾六匁

右之通御買上ニ相成候御代金

御渡被遊慥ニ奉請取候、以上

天明二寅年　小堀数馬御代官所　和州宇陀郡松山町　森野藤助㊞

蓑　笠之助様

本文之通人参御買上御代金請取証文下書差出候間、

右証文竪紙ニ相認致印形可差出候、御金払方御代官

蓑　笠之助江相渡候間（虫損）□　□可差出候

一五　薬草植方之書付

寛政二年

（表紙貼紙）「寛政二戌年江戸出府ノ上記メタルモノニテ婺郊翁ヨリ伝来ノ作方ヲロセルモノ」
（表紙）

薬草木植方製法奉申上候書付

森野藤助

一唐種防風　朝鮮種黄芩　唐種藁本
唐種白芷　当帰　木香
唐種延胡索　唐種知母　唐種甘艸
唐種肉桂　台州烏薬　朝鮮山茱萸
唐種補骨脂　黄柏　唐種呉茱萸
唐種沙参　唐種百部根　唐種白朮蒼朮
唐種黄蓍　唐種河首烏　唐種付子
松売　唐種酸朱仁　川芎
白芍薬　赤芍薬　山芍薬
地黄　荆芥　午膝
鬱金　紫蘇　連蕎
吉梗　香薷　三稜
紅花　山梔子　莨菪子（胡麻子）
茴香　杓把子　青相子
薏苡仁　黄情（精）　葵遂
前胡　龍旦　天南星
商陸　羌活　独活
蔓砂参　爪呂根

右万草木作植并製法方之儀　最初書籍出顕候通并草木好之者ニ承合候而、耕作仕候得とも（兎）莵角繁茂仕兼候品茂御座候、如何与奉存畑地□（汚）手入仕年来試相考候処、何之品ニ而も唯物好迄之外と畑地ニ□耕作仕候とハ植方形状気味等殆相違仕旨を漸々覚申候趣、私祖父方申伝候て作植し製法仕罷在候義ニ御座候、此度御尋被成下候段難有仕合ニ奉存則書面通奉申上候、以上

戌七月　森野藤助

一六　木村宗右衛門御役所御用状

（表紙）

地黄ニ付キ急用
急キ書付
木村宗右衛門
御役所
御用
和州宇陀郡松山町
森野藤助

先達而申渡候御用地黄当月上旬可相納旨従江戸表申来候間、此書付着次第早速掘出土根之儘生ニ而掛目八貫目箱ニ入候而当御役所江早々持参可致候

右之儀急ニ申参候ニ付仕立飛脚を以申遣候条可得其意候

且又右之内源助方も為相納可申哉之旨相伺候処、何連ニも先達而被仰渡之通、森野藤助方十一月上旬迄ニ相納候様可申付旨被仰渡候間是又可存其意候

一当月幾日頃当御役所へ持参いたし候哉、日積り書付此飛脚之ものへ相渡可差出候、以上

木村宗右衛門

子十一月朔日御役所回

宇陀郡松山町
森野藤助

一七　宇陀郡内産物取調帳

（表紙）

明治十二年二月
御問題
問題外　産物調書上帳

川芎

功薬用　薬料	
性質　草根	
産地所	当郡田口村外十八ヶ村
反別	五町四反
産業戸数	八十五戸
産業人員	六百四十八人
壱ヶ年産額	七千五百六十斤
直価連年平均	三百十七円五十弐銭
壱人一日給料	十五銭

壱人一日事業　畠弐十五坪
一ヶ年費額　九十七円五十銭（朱書）但壱反歩費額一円八十銭五厘
産地消費　弐百五十斤
頒売地方　摂津国大阪　尾張国名古屋
運出高　七千三百拾斤
収穫平均壱反歩ニ付百四十斤
上畑　〃断　百五十斤
中畑　〃断　百四十斤
下畑　〃断　百三十斤
当帰
効　薬用
生質　草根
産地所　当郡調子村外十九ヶ村
反別　弐町四反五畝廿七歩
産業戸数　九拾六戸
産業人員　三百十八人半
壱ヶ年産額　五千四百五十五斤
直価連年平均　弐百拾八円弐十銭

壱人一日給料　拾五銭
壱人一日事業　畠弐十三坪
壱ヶ年費額　百弐拾弐円（朱書）壱反歩費額四円九十五銭五厘
産地消費　五百斤（朱書）四十七円七十七銭五厘
頒売地方　摂津大阪　伊勢津　尾張名護屋
運出高　四千九百五拾五斤
収穫平均壱反歩ニ付弐百廿七斤
上畑　仝断　弐百四十斤
中畑　仝断　弐百廿斤
下畑　仝断　弐百斤
呉茱萸
効　薬用
性質　木実
産地所　当郡六十ヶ村
反別　山畝岸或宅地軒踏作ニ障サル様ニ所々ニ残ル故反別測カタシ
産業戸数　四百八十壱戸
摘採人員　千二百九十弐人半
壱ヶ年産額　六千四百五十斤

直価連年平均　三百廿二円五十銭
壱人一日給料　拾銭
壱人一日事業　摘採　四貫目
一ヶ年費額　弐百弐十円
産地消費　無シ
頒売地方　摂津大阪　山城西京　尾張名護屋
運出高　六千四百五十斤

大黄

効　薬用
性質　草根
産地所　当郡岩清水村外八ヶ村
反別　四反
産業戸数　十四戸
産業人員　四十人
壱ヶ年産額　七百七拾五斤六歩
直価連年平均　拾五円五十一銭弐厘
壱人一日給料　十五銭
壱人一日事業　畑　三十坪
一ヶ年費額　六円　（朱書）壱反歩費額壱円六十銭
産地消費　無シ
頒売地方　摂津国大阪
運出高　七百七拾五斤六歩
収穫平均壱反歩ニ付百九十四斤
上畑　〃断　弐百拾斤
中畑　〃断　百九十四斤
下畑　〃断　百七十斤

防風

功　薬用
生質　草根
産地所　当郡比布村外四ヶ村
反別　弐反〇廿五歩
産業戸数　拾弐戸
産業人員　三拾弐人
壱ヶ年産額　七百五拾斤
直価連年平均　弐拾弐円五十銭
壱人一日給料　拾五銭

壱人一日事業　畠十五坪
一ヶ年費額　四円八十銭（朱書）但シ壱反歩費額弐円三十銭
産地消費　無シ
頒売地方　摂津大阪　山城西京
運出高　七百五十斤
収穫壱反ニ付　平均三百七十五斤
上畑　〃断　四百五十斤
中畑　〃断　三百七十斤
下畑　〃断　三百斤

芍薬

効　薬用
生質　草根
産地所　植付ヨリ五ヶ年目ノ冬掘トル
反別　当郡春日村外九ヶ村
産業戸数　四畝五反歩
産業人員　六十九戸
一ヶ年産額　弐百七拾人
直価連年平均　六千七百五十斤　弐百弐円五十銭

壱人一日給料　拾弐銭
壱人一日事業　畠弐拾五坪（朱書）壱反歩費額三円六十銭
壱ヶ年費額　百六拾弐円
産地消費　八百斤
頒売地方　摂津大阪　尾張国名古屋
運出高　五千九百五十斤
収穫壱反歩平均　百五十斤
上畑　〃断　百六十斤
中畑　〃断　百五十斤
下畑　〃断　百四十五斤

黄芩

効　薬用
生質　草根
産地所　当郡小附村外廿九ヶ村
反別　四町
産業戸数　弐百六十弐戸
産業人員　四百人
一ヶ年産額　五千斤

直価連年平均　百廿四円九十銭
壱人一日給料　拾三銭
壱人一日事業　畠三十坪
一ヶ年費額　五十弐円（朱書）壱反歩費額金一円卅銭
産地消費　無シ
頒売地方　摂津大阪　尾張国名古屋
運出高　五千斤
収穫平均壱反歩ニ付百廿五斤
上畑　〃断　百卅斤
中畑　〃断　百廿五斤
下畑　〃断　百廿斤

木香

功　薬用
生質　草根
産地所　当郡石田村外九ヶ村
反別　三反七畝十五歩
産業戸数　弐十戸
産業人員　三十七人半

一ヶ年産額　千五百斤
直価連年平均　三拾六円
壱人一日給料　拾弐銭
壱人一日事業　畠三十坪
一ヶ年費額　五円五十銭（朱書）一反歩費額壱円四十六銭
産地消費　無シ
頒売地方　摂津国大阪
運出高　千五百斤
収穫高平均壱反歩ニ付　四百斤
上畑　同断　四百五十斤
中畑　同断　四百斤
下畑　同断　三百五十斤

白芷

功　薬用并白油加
生質　草根
産地所　当郡内牧村外四十九ヶ村
反別　三反七畝十七歩
産業家数　六百四十七戸

産業人員	千五十五人
壱ヶ年産額	弐万九千五百五十斤
直価連年平均	八百八十六円五十銭
一人壱日給料	拾三銭
壱人一日事業	弐拾坪
一ヶ年費額	百五十八円弐十壱銭（壱反歩費額 二円十五銭）
産地消費	無シ
頒売地方	摂津大阪 東京 西京 伊勢 尾張国
運出高	弐万九千五百五拾斤
収穫平均壱反歩ニ付	四百斤
上畑 〃断	四百六十斤
中畑 〃断	四百斤
下畑 〃断	三百四十斤
爪棲根	
功 薬用	
生質 蔓草根	
産地所	当郡山粕村外十二ヶ村
反別	山渓原野自生ノ物ナレハ難測

産業戸数	三十五戸
掘採産業人	六拾人 自製ス
壱ヶ年産額	弐千三百三拾斤
直価連年平均	六十七円五十銭
壱人一日給料	十五銭
壱人一日事業	十一斤半
一ヶ年費額	六拾七円五十銭
産地消費	無シ
頒売地方	当国中 摂津大阪
運出高	弐千三百三拾斤
羌活	
功 薬用	
生質 草根	
産地所	当郡東山村内牧村外十四ヶ村
反別	山渓茅原ノ自生ニ而該山一円ニアラサレハ反別測カタシ
産業戸数	百二十戸
掘採業人	四百弐十人
壱ヶ年産額	三千〇五十斤

直価連年平均　七十九円五十銭
壱人一日給料　拾五銭
壱人一日事業　七斤弐歩
一ヶ年費額　七拾円
産地消費　弐百五十斤
頒売地方　当国中　摂津大阪
運出高　弐千八百斤

独活

効　薬用
生質　草根
産地所　当郡東山村田口村外十四ヶ村
反別　山野茅原自生ニシテ畝地一円ニアラサレハ反別測カタシ
産業戸数　五十戸
掘採産業人　三百人
壱ヶ年産額　三千弐百五拾斤
直価連年平均　三十弐円五十銭
壱人一日給料　十一銭五厘
壱人一日事業　拾斤八歩

産地消費　無シ
頒売地方　摂津大阪　当国中
運出高　三千弐百五拾斤

前胡

功　薬用
生質　草根
産地所　当郡東山村神末村外十六ヶ村
反別　山野焼原ニ自生ニシテ其所壱円ニアラサレハ反別測カタシ
産業戸数　弐百七拾六戸
掘採産業人　千四百人
壱ヶ年産額　五千弐百五拾斤
直価連年平均　百三拾壱円廿五銭
壱人一日給料　十銭
壱人一日事業　三斤壱歩
一ヶ年費額　百四十円
産地消費　百斤
頒売地方　当国中　摂津大阪
運出高　五千百五拾斤

桔梗

功　薬用

生質　草根

産地所　当郡東山村芳野村外十六ヶ村

反別　山野焼原自生ニシテ該所一円アラサレハ反別測カタシ

産業戸数　三百十七戸

掘取産業人　千四百人

壱ヶ年産額　五千八十斤

直価連年平均　百弐十七円

壱人一日給料　十銭

壱人一日事業　三斤壱歩

一ヶ年費額　百四十円

産地消費　弐百斤

頒売地方　摂津大阪　尾張名護屋

運出高　四千八百八拾斤

紫蕨

功　食用

性質　山草芽

産地所　当郡東山村菅野村外十九ヶ村

反別　山渓焼野ニ自生シテ該地一円アラサレハ反別測カタシ

産業家数　八百八十戸

摘採業人員　千百人

製造職人　無シ　手製ニス

壱ヶ年産額　千三百五〆目

直価連年平均　三百廿六円二十五銭

壱人一日給料　拾弐銭

壱人一日事業　予五百三十目

一ヶ年費額　二百五十三円廿壱銭

産地消費　弐百貫目

頒売地方　大和国中　摂津大阪

運出高　千百五〆目

楮　皮

功用　紙漉料

生質　木皮

産地所　当郡百十一ヶ村一円

産地反別　山該岸或ハ宅地軒端作ニ際サル様ニ所々ニ残ル故反別測カタシ

産業家数　三千五百十戸
製造業人員　六十人
製造職人員　三百人
壱ヶ年産額　八千六百六拾九〆目
直価連年平均　千七百三拾三円三十八銭
壱人一日給料　十五銭
壱人一日事業　千皮八貫目
一ヶ年産額　千六百三拾八円弐十銭
産地消費　無シ
頒売地方　当国吉野郡紙漉元ヱ運出ス
運出高　八千六百六拾九〆目

煙草

功　吸喫料
質　草葉
産地所　当郡一円百拾壱ヶ村
産地反別　七拾弐丁五反六畝歩
産業戸数　弐千戸
産業人員　弐千九百弐人半
製造業人員　四十五人
製造職人員　弐十人
壱ヶ年産額　拾七万八千百四拾四斤
壱人一日事業　品拾五坪
一ヶ年費額　五拾円五十銭（朱書）但シ壱反歩費額三円四十銭
産地消費　六百貫目
頒売地方　大和国中　摂津大阪
運出高　四千貫目
収穫平均壱反歩ニ付三百貫目
上畑　仝断　三百七十〆目
中畑　仝断　三百〆目
下畑　仝断　弐百〆目

生葛

功　製葛ニアリ
性質　葛草根
産地所　宇陀吉野十市式上式下山辺等
反別　他郡山中ニテ掘採故反別難測
掘採業人員　弐百余人

壱ヶ年産額　壱万九千二百〆目
直価連年平均　三百三十六円
壱人一日給料　十四銭
壱人一日事業　八百円
産地消費　無シ
頒売地方　無シ
運出高　直ニ営業人ヘ頒売ス
葛粉
功　食用　白粉加
製法営業人　五戸
元生葛　壱万九千二百〆目
製法職人　廿五人
製法瀑上ヶ壱ヶ年産額　五千四百斤
直価連年平均　五百九十四円
壱人一日給料　拾弐銭
壱人一日事業　三斤六歩
一ヶ年費額　五百拾六円
産地消費　五百斤

（ハリ紙）葛粉　原質葛根ナリ

頒売地方　当国内　摂津大阪　山城京伏見
運出高　四千九百斤
氷豆腐
功　食用
性質　豆　白大豆
産地所　当郡山糟（粕）村
元大豆　拾五石
産業戸数　壱軒
製造業人　壱人
製法職人　三人
壱ヶ年産額　拾壱万五千個
真価連年平均　壱万個ニ付拾九円六十銭
壱人一日給料　弐十銭
壱人一日事業　六百七拾弐個
壱ヶ年費額　三拾弐円七拾銭　但職人給料之外
産地消費　九千二百個
頒売地方　大和　伊勢国中
運出高　拾五万八千個

藍

功　染料

性質　草葉

産地所　当郡小附村外十九ヶ村

反別　弐町

戸数　三十八戸

産業人員　四百四十人

壱ヶ年産額　八百貫目

直価連年平均　弐百円

壱人一日事業　十三坪

壱人一日給料　十五銭

一ヶ年費額　六拾六円（朱書）壱反歩費額三円卅銭

産地消費　該地ニ而染料頒売ス

頒売地方　無シ

運出高　無シ

収穫平均一反歩ニ付四十〆目

上畑　〃断　四十五〆目

中畑　〃断　四十壱〆目

下畑　〃断　三十五〆目

仏掌薯

功　食用

性質　蔓草根

産地所　当郡山糟村外十九ヶ村

反別　五町

戸数　百八十弐戸

産業人員　千五百人

一ヶ年産額　千八百貫目

直価連年平均　三百四拾弐円

壱人一日給料　十五銭

壱人一日事業　拾坪半

一ヶ年費額　弐百二拾五円（朱書）壱反歩費額四円五拾銭

産地消費　五百〆目

頒売地方　当国中　摂津大阪

運出高　千三百貫目

収穫平均壱反歩ニ付三十六〆目

上畑　全断　四十〆目

中畑　仝断　三十六〆目
下畑　仝断　三十弐〆目

茶

功用　飲
生質　木芽
産地所　当郡神末村外六拾四ヶ村
反別　六拾九町三反三畝九歩
産業戸数　六百九十弐戸
製造業人員　百七拾人
製法職人員　三百四十七人
壱ヶ年産額　三万千弐百斤
直価連年平均　五千三百四円
壱人一日給料　弐拾五銭
壱人一日事業　四斤壱分六
一ヶ年費額　千九百五拾壱円七拾五銭（朱書）但シ壱反歩費額弐円八十銭
産地消費　壱万千三百八十五斤
頒売地方　山城国宇治伏見摂津国大阪神戸

運出高　壱万九千八百拾五斤
収穫平均壱反歩ニ付四拾五斤
上畑　仝断　五十斤
中畑　仝断　四十五斤
下畑　仝断　四十斤

栃

功用　食渋汁搾
生質　草物
産地所　当郡百十一ヶ村壱円（山畝草或宅地畔畦作ノ障リニナラサル様所々ニ栽ル故反別測カタシ）
反別　三千六百六拾九戸
栽産家数　千七百人
摘採人員　六万八千〇拾五〆目
壱ヶ年産額　弐千四拾三円四十五銭
直価連年平均　十八銭
壱人一日給料　四拾貫目
壱人一日事業（摘トリ）　三百六円
一ヶ年費額　四万七百九拾九〆目
産地消費

頒売地方　当国十市式上式下高市郡

運出高　弐万七千弐百拾六〆目

雲母砂

麻生田村ニ産スレトモ鉱脈ワツカ五六尺幅壱寸ハカリ見エテ尤黒色光沢ナシ下品ナリ

各所ニ散在シテ鉱脈面積斗リ難シ尤モ売品ニセザレバ亦要領等不詳

磐石

山川ニ流出タル凡ソ或ハ長二三尺ノ自然石敲ケハ磬ノ音スル石稀ニアレトモ一片ノ板ノ如キニナリタル上品更ニナシ

炭粉

近年ハ食用ニ掘取リ自製シテ産業ニセス

麻苧

各村ニ植レトモ自用而已頒売ニ不足

地黄

地味ニ不適故作リ止、然レトモ価高クレハ時ニ臨テ作出ス

龍膽

原野自生アレトモ掘取コト少、頒売ニ不足

運出概計　未タ運出セス

一人一日給料　上中下平均弐拾九銭五厘

一人一日採取　粗鉱百八拾〆目　一人当採取ハ取調カタク惣而一人一日採額本行通

壱ヶ年費額　壱万二千九百五十七円九十弐銭八厘但本年七月着手ヨリ十二月迄六ヶ月分

前書之通取調候処相違無御座候也

大和国三大区四小区副区長　都司太郎

区長派出之内代リ副区長　久保伊平

副区長　吉岡七郎

二　菊岡家文書

（菊岡浚政氏蔵）

一　起請文　元和五年

天罰起請取証件ノ状

一医道之義不残御相伝可被成下旨忝ク奉存候事

一薬調合之儀不寄尽詞可申事